



東京支部学生会 学生会報 第21号
Student Journal 2016

特 集

『学生員の就職活動』

一般社団法人 電子情報通信学会
東京支部学生会

電子情報通信学会 東京支部学生会 学生会報 第 21 号 目次

平成 27 年度東京支部運営委員・学生会運営委員・学生会顧問一覧	... 3
幹事校代表挨拶（巻頭文）	川上 智恭（千葉工大） ... 5
幹事団顧問の挨拶	鎌倉 浩嗣（千葉工大） ... 6
特集①：平成 27 年度東京支部学生会事業紹介	... 9
講演会	川端 萌美（早大） ... 10
見学会 A	鞠 鵬・田代 淳史・村田 雄太（東京電機大） ... 11
見学会 B	杉山 克俊（日大） ... 12
幹事団	上條 弘貴（東海大） ... 13
SCI	小倉 雅樹（防衛大） ... 13
学生会報	山村 光卓（電通大） ... 14
研究発表会	下総 諒（東京都市大） ... 14
特集②：東京支部学生就職活動記	... 15
学会紹介	... 20
学生員の特典	... 23
学生員の入会方法	... 24
卒業される学生さんへ	... 28
編集後記	... 30

平成 27 年度東京支部運営委員

(敬称略・順不同)

支部長	相澤 清晴	東大	委員	荒木 徹	群馬大
次期支部長	川添 雄彦	NTT	委員	鎌倉 浩嗣	千葉工大
庶務幹事	上原 一浩	NTT	委員	筒口 拳	NTT
庶務幹事	眞田 幸俊	慶大	委員	今田 美幸	NTT
会計幹事	下西 英之	NEC	委員	道下 尚文	防衛大
会計幹事	大高 明浩	NTT	委員	丸山 貴志子	日立
委員	有馬 卓司	東京農工大	委員	劉 江	早大
委員	岡村 敦	三菱電機	委員	朝永 博	富士通研
委員	河尻 祐子	NTT	委員	佐々木 稔	茨城大
委員	小館 亮之	津田塾大	委員	藤井 雅弘	宇都宮大
委員	田中 聡	NTT ドコモ	委員	郷 健太郎	山梨大
委員	流田 理一郎	KDDI 研	委員	濱本 和彦	東海大
委員	松井 知子	統計数理研			

以上 25 名

平成 27 年度東京支部学生会運営委員

(敬称略・順不同)

委員長	川上 智恭	千葉工大	委員	山田 拓実	神奈川工大	委員	西山 哲央	上智大
副委員長	上條 弘貴	東海大	委員	浅井 万平	千葉大	委員	朝倉 啓太	上智大
書記	下條 瑞季	東海大	委員	鞠 鵬	東京電機大	委員	松島 寛季	東京工大
委員長補佐	保坂 雄大	千葉工大	委員	斎藤 敬	東京電機大	委員	倉持 春聖	東京工大
委員	岩崎 剛輝	千葉工大	委員	田代 淳史	東京電機大	委員	上垣 将洋	日大
委員	蛭原 勝徳	千葉工大	委員	村田 雄太	東京電機大	委員	杉田 和貴	日大
委員	香西 優	千葉工大	委員	池田 航平	東京電機大	委員	杉山 克俊	日大
委員	谷本 大樹	千葉工大	委員	市川 雄太	東京電機大	委員	高橋 涼	日大
委員	中野 敦貴	千葉工大	委員	尾関 竜太郎	東京電機大	委員	立澤 圭輔	日大
委員	大前 寛尚	東海大	委員	高橋 一輝	群馬大	委員	長澤 和也	日大
委員	岡井 凜太郎	防衛大	委員	北村 拓也	群馬大	委員	山下 大地	日大
委員	小倉 雅樹	防衛大	委員	百瀬 和也	明大	委員	南川 俊	拓殖大
委員	平阪 健太	防衛大	委員	島田 直紀	明大	委員	和高 拓也	拓殖大
委員	稲垣 慶太郎	横浜国大	委員	津村 康介	明大	委員	眞田 裕史	拓殖大
委員	佐久間 義友	横浜国大	委員	嶋村 優真	明大	委員	片岡 愛	早大
委員	福谷 友宏	横浜国大	委員	安良岡 優	明大	委員	川端 萌美	早大
委員	山村 光卓	電通大	委員	下総 諒	東京都市大	委員	新井 翔太	都立産技高専
委員	富澤 晶	電通大	委員	関口 高穂	東京都市大	委員	福永 圭脩	都立産技高専
委員	熊田 春人	中大	委員	間山 京将	東京都市大			
委員	村上 大樹	中大	委員	小田中 啓	東京都市大			
委員	井上 孝重	神奈川工大	委員	中村 啓太	東京都市大			
委員	太田 亮祐	神奈川工大	委員	中村 哲也	東京都市大			
委員	竹谷 啓悦	神奈川工大	委員	永野 智彦	東京都市大			
委員	中野 智仁	神奈川工大	委員	樋口 美麗	日本女子大			
委員	檜原 裕一郎	神奈川工大	委員	齊藤 彩	日本女子大			

以上 68 名

平成 27 年度東京支部学生会顧問

(敬称略・順不同)

顧問	野澤 昭雄	青学大	幹事	鎌倉 浩嗣	千葉工大
顧問	横田 浩久	茨城大	顧問	小林 一哉	中大
顧問	荒川 臣司	茨城高専	顧問	小館 亮之	津田塾大
顧問	熊谷 毅	宇都宮大	顧問	河崎 雅人	帝京科学大
顧問	清水 隆志	宇都宮大	顧問	松浦 基晴	電通大
顧問	平岡 隆晴	神奈川大	顧問	野村 英之	電通大
顧問	塩川 茂樹	神奈川工科大	顧問	藤井 威生	電通大
顧問	元木 誠	関東学院大	顧問	濱本 和彦	東海大
顧問	阿部 清彦	関東学院大	顧問	川原 圭博	東大
顧問	弓仲 康史	群馬大	顧問	永田 明德	東京工科大
顧問	加藤 毅	群馬大	顧問	黒川 弘章	東京工科大
顧問	重野 寛	慶大	顧問	田中 晶	東京高専
顧問	田中 敏幸	慶大	顧問	山岸 昌夫	東京工大
顧問	篠原 克幸	工学院大	顧問	吉野 隆幸	東京電機大
顧問	木村 雄一	埼玉大	顧問	岡野 好伸	東京都市大
顧問	池口 徹	東京理科大	顧問	高野 邦彦	都立産技高専
顧問	坂本 政祐	埼玉工大	顧問	柴崎 年彦	都立産技高専
顧問	三好 匠	芝浦工大	顧問	横井 健	都立産技高専
顧問	相馬 隆郎	首都大	顧問	田中 聡久	東京農工大
顧問	田川 憲男	首都大	顧問	藤沢 匡哉	東京理科大
顧問	下村 和彦	上智大	顧問	佐伯 勝敏	日大
顧問	小林 学	湘南工科大	顧問	黒岩 孝	日大
顧問	花山 英治	職業大	顧問	大貫進一郎	日大
顧問	杉山 賢二	成蹊大	顧問	木許 雅則	日本工大
顧問	高見 一正	創価大	顧問	小川 賀代	日本女子大
顧問	常光 康弘	拓殖大	顧問	亀井 利久	防衛大
顧問	大竹 敢	玉川大	顧問	中村 僚兵	防衛大
顧問	山崎 浩一	玉川大	顧問	李 磊	法政大
顧問	関屋 大雄	千葉大	顧問	井家上哲史	明大
顧問	伊與田光宏	千葉工大	顧問	本間 聡	山梨大
顧問	佐波 孝彦	千葉工大	顧問	田中 良明	早大
			顧問	河野 隆二	横浜国大

以上 63 名

平成 27 年度学生会報巻頭言

学生会運営委員長

川上 智恭

東京支部学生会とは？

東京支部学生会は、平成 7 年度に電子情報通信学会東京支部の下部組織として設立され、今年度で 20 周年を迎えました。設立から今日までに多くの学生が、東京支部学生会の活動に参加しています。今年度の東京支部学生会は、所属校 19 校、総勢 68 名で活動をしています。東京支部学生会では、「研究発表会」、「講演会」、「見学会」などのイベントを企画、実施しており、毎年多くの方々にイベントに参加していただいております。また、今年度から東京支部学生会は、東京支部以外の他支部の学生会組織との連携を行っており、活動・交流の幅は広がりつつあります。

学会とは、学術的な自分の研究を外部に発信し、他者と関わりを持って切磋琢磨する場と考えています。また、学生個々人の力は微々たる力かもしれませんが、今後の社会、学会を担っていくのは私たち学生です。学生の皆様には、大学での研究成果の発表の場として「研究発表会」を利用していただき、著名人、企業の方との交流の場として、「講演会」、「見学会」を利用していただければと思います。自分の研究について他者と議論を重ね、交流し、切磋琢磨する場として、東京支部学生会のイベントをご活用いただければ幸いです。

本誌は、多くの皆様に支えられ 21 回目の発行となりました。本誌では、東京支部学生会の各事業について紹介しております。本誌で東京支部学生会の活動をご覧いただき、読者の皆様が東京支部学生会の活動に興味を持っていただければ幸いです。最後に日頃から東京支部学生会の活動に多大なご支援をいただいている電子情報通信学会東京支部の方々、本誌をご覧いただいている方々に心よりお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

学生会は学生員みなさんの公器！

千葉工業大学 情報工学科

鎌倉 浩嗣

東京支部学生会顧問幹事の鎌倉です。多くの皆様のご尽力のおかげで東京支部学生会は益々活発になっており本当にありがとうございます。顧問として一言ご挨拶を申し上げます。

学生の皆さんが、学会に最初に触れるのは、自分の研究成果の発表の場としてという人が多いと思います。立場も経験も異なる初めて会う人を前に研究発表をするとき、学内や研究室での発表以上に、十分に準備して臨むことでしょう。指導教員や研究室メンバーの前でリハーサルをして、発表構成はよいか、分かりにくい箇所や誤解を与えるところはないか、聴き取り易い音量や発声であるかなどの意見や感想を得たりするでしょう。発表に慣れないうちは、他者からのコメントに対して、それまでの努力が否定されたように感じ、ひょっとしたら理解しない聞き手のほうが悪いかなのような態度をとることもあるかもしれません。しかしそれは発表者がとるべき姿勢ではありません。一面的な見方しか持ち得なかった自分の視点を広げるチャンスであり、誤解を与えた原因が自分の発表の仕方にあると素直に考え、改善に努めるのがあるべき姿でしょう。このような姿勢に至れば、真に、発表準備が整ったと言えるでしょう。そうした準備を経ていよいよ発表会場に行くと、参考にした論文の著者や著名な研究者がいたり、活発な質疑応答で盛り上がるセッションを目の当たりにしたりすれば、武者震いも最高潮になるでしょう。そうした緊張とともに、自分が苦勞して得た研究成果を理解してもらおうという最大の知的作業を成し遂げる、そういう場が学会です。

最初の学会との出会いがこのように自分の研究成果の発表である場合、自分の発表で精一杯になってしまうかもしれません。しかしながら、もう一つ反対側にも目を向けてみてほしいと思います。多くの努力した研究成果を共有する場所に価値を見だし、皆さんのように努力して研究する人がもっと多く集まるように、その活動を支える人たちが必要です。

本学生会は、そう考える学生たちによって運営されており、学会の縮図であると言えます。研究発表会を始め、見学会や講演会の企画・実施、会報誌の発行を通じて、洗練された研究発表に価値をおく学生のために、時間と労力をかけています。各事業の実施にはあたっては、学生であっても学会の目的を斟酌し、各事

業の性質やその効果を自分なりにイメージし仲間と一緒にになって具体化しています。

学生会は、学生員みなさんの公器です。学生会という器は、自分自身の研究時間や勉強時間を割いて、その入れ物を作らんと努力する学生のおかげで、多くの努力の成果物である研究発表が集まります。研究活動の1つ1つにドラマがあり学生は成長していることと思いますが、その場を作らんと器を作っているひとりひとりもその活動を通じて成長していると思います。逆に、学生会という器を作ろうと集うひとりひとりが成長することで、本学生会はもちろん、ひいては学会も栄えていきます。この学生会という器を作る側にも入って、研究活動に加えて、ぜひ豊かな学生生活を送ってもらえたらと思います。

特集①

平成 27 年度 東京支部学生会事業紹介

東京支部学生会には 19 校が参加しており，7 つの事業団体に分かれ，
役職に就いています。

ここでは，今年度の各事業団体の所属校と，活動について紹介します。

講演会グループ.....	P10
見学会 A グループ.....	P11
見学会 B グループ.....	P12
幹事団グループ、SCI グループ.....	P13
学生会報グループ、研究会発表グループ.....	P14

講演会グループ

活動概要

我々講演会グループは、学生会の主旨である電子情報通信学会学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦をはかることを目的に、講演会の開催を通してこれを達成するための活動を行う。

今年度の実施内容

題目：

1. 内閣府（総合科学技術イノベーション会議）参事官 -- 未来の産業創造・社会変革に向けた科学技術イノベーション --
2. 国家公務員として

-- 日本、そして世界に貢献 --

講演者：布施田 英生氏

（内閣府参事官（政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付（イノベーション戦略推進担当，重要課題達成担当））

日時：平成 27 年 10 月 24 日（土）16：00～

会場：早稲田大学 西早稲田キャンパス 5

5N 号館 1 階 大会議室

感想

講演会の前半では、日本の現状と課題、なぜ

今イノベーションが必要とされているのか、どのようにイノベーションを生み出すのかなど、国家レベルの今までにない視点でのお話をお聞きでき、大変勉強になりました。また、講演会の後半では、布施田様の国家公務員としての今までの仕事内容をご紹介頂きました。セネガル大使館での活動など、国家公務員の仕事の幅広さに改めて驚きを感じました。また国際社会での日本の活躍やどのように相手の主張を尊重しつつ上手く自分の主張を通すのかというお話が印象的でした。参加者アンケートでは、国際機関で働く方のお話を聞く機会はめったにないので、国際機関の内部の様子やそこでの日本の立場を聞くことができ、本当に参加してよかったという声もありました。最後となりましたが、ご多忙の中、貴重なご講演して頂きました布施田英生様に深く御礼申し上げます。

メンバー

幹事校：早稲田大学

片岡 愛，川端 萌美

副幹事校：産業技術高等専門学校

福永 圭脩，新井 翔太

サポート校：拓殖大学

南川 俊，和高 拓也，眞田 裕史



布施田様ご講演の様子



集合写真

（文責：早稲田大学 川端）

見学会 A グループ

活動概要

我々、見学会 A グループは情報社会における最先端技術に関して直接学び・触れ合うことを目的に、研究所や企業の方々のご厚意のもと、IEICE 会員・学生会員、学生向けに見学会を開催しています。

今年度の実施内容

見学先：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

日時：平成 27 年 9 月 7 日(月) 13:00～16:00

見学内容

- ・「自律移動車いすとモビリティロボット
シェアリングシステム」
- ・「ヒューマノイドの人間動作再現による
アシスト機器の評価」
- ・「RT を活用した高齢者支援住宅」
- ・「災害調査用ロボットシステム」
- ・「双腕ロボットによる部品整列作業」
- ・「全方位 RGB-D カメラシステム」
- ・「研究者との対話会」 *各 20 分程度



セグウェイ体験の様子



産総研 研究員の方と見学会参加者

感想

当日は、合計 20 名の参加がありました。事後アンケートでは、様々な分野の研究を見ることができ、アイデアに驚いたという意見が多かったです。また、セグウェイ体験会の人気が非常に高く、ほとんどの方に満足できたとお答え頂きました。

今回の見学会では、普段見ることの出来ない最先端のロボットに関する研究に触れ、改めて日本の研究所における技術力の高さを認識しました。快く開催をお引き受け頂きました、産業技術総合研究所の皆様へ心より感謝致します。

メンバー

幹事校：東京電機大学

鞠 鵬, 齋藤 敬, 田代 淳史, 村田 雄太
副幹事校：群馬大学

高橋 一輝, 北村 拓也

サポート校：千葉大学

浅井 万平

(文責：東京電機大学 鞠, 田代, 村田)

見学会 B グループ

活動概要

我々見学会 B グループは、NTT グループの電気通信における技術開発の歴史を通して、通信技術の発展の理解を深める事を目的に、NTT 武蔵野研究開発センタ内 NTT 技術史料館の見学会を開催いたしました。

今年度の実施内容

見学先：NTT 武蔵野研究開発センタ内
NTT 技術史料館

日時：平成 27 年 12 月 3 日 14:00 ～ 17:00

感想

研究開発センタ内では Jubatus をはじめ、3 つの最新の技術についてのお話を伺いました。その後技術資料館に移動し、技術を探るコースに参加いたしました。ここでは、自動交換機といったノード技術から、歴代の公衆電話といった身近なユーザ機器の技術、また実際に打ち上げられた通信衛星の予備機といったものを、様々な実物と、丁寧な解説とともに体験する事ができました。その後、3 名の OB の方たちとの座談会を行い、OB の方たちの体験談のお話を聞きながら、技術者としての心構え等の貴重なお話や考え方を学ばせていただきました。

今回の見学会では、様々な通信技術の進化を、いろいろな資料や説明を通じて、体験する事ができたと思います。私自身とても貴重な経験をさせていただき、大変勉強になりました。今回の見学会の開催にあたり、ご協力をいただきましたNTT武蔵野研究開発センタおよびNTT技術史料館の皆様へ心より感謝申し上げます。



技術資料館内での様子



OB の方との座談会の様子



メンバー

幹事校：東京工科大学

松島，三枝，倉持

副幹事校：日本大学

長澤，杉山

(文責：日本大学 杉山)

幹事団グループ

我々幹事団グループは、学生会の円滑な運営を目的とし、全事業グループの取りまとめ役として活動を行っています。学生会では幹事団が指揮をとり、各事業グループの進捗確認や意見交換を行い今後の各事業グループの活動方針を定めます。

幹事団は、学生会運営委員会の場が各事業グループにとって、次の活動へ結びつく建設的な場となるように、全員一丸となって積極的に活動を行っています。



(学生会運営委員会での取りまとめの様子)

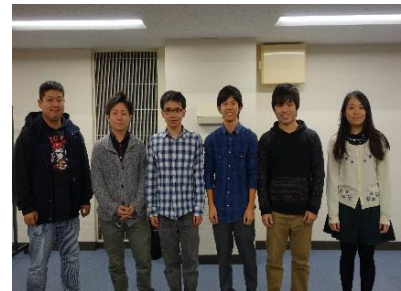
メンバー

幹事校：千葉工業大学

川上 智恭、保坂 雄大、
谷本 大樹、香西 優、
岩崎 剛輝、蛭原 勝徳
中野 敦貴

副幹事校：東海大学

上條 弘貴、下條 瑞季、大前 寛尚



(幹事団メンバー集合写真)

(文責：東海大学 上條)

SCI グループ

SCI (Student Community of IEICE) グループは学生間相互の理解を図ることを目的として平成 22 年に発足した、東京支部学生会では最も新しい事業グループです。

平成 27 年度は学生間相互の交流を促進することを活動理念とし、運営委員会終了後の親睦会を開催しました。また、各支部の学生組織との連携の強化に向けた取り組みを始めています。さらに、内外を問わず学生会活動を知っていただくための広報活動も実施しています。



メンバー

幹事校：防衛大学校

小倉 雅樹、岡井 凜太郎、平阪 健太

副幹事校：横浜国立大学

稲垣 慶太郎、福谷 友宏、



左から、小倉、平阪、佐久間、福谷

学生会報グループ

電子情報通信学会に所属する学生員の相互理解や親睦を深めるために発行してきた学生会報も、今年度で 21 号となりました。ここ数年の特集テーマを振り返ってみると、「次世代の通信技術」「医療・介護・福祉」「科学技術教育全体の見直し」と多種多様であり、まさに幅広い研究分野を専攻する学生が集まる本学生会を象徴していると思います。また、昨年度は「学生員の活動」をテーマに取り上げ、研究以外の取り組みにもスポットを当てました。この冊子を読むことで、自分以外の学生が普段どのような活動に取り組んでいるのかについて知る機会としていただき、皆様ご自身のモチベーションに少しでも繋げていただけるよう、編集に臨んで参ります。

メンバー

幹事校：中央大学

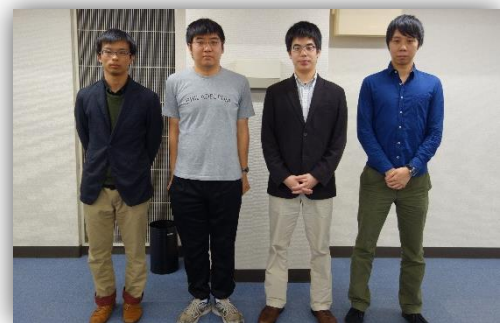
熊田、村上

副幹事校：神奈川工科大学

井上、太田、竹谷、
中野、檜原、山田

サポート校：電気通信大学

山村、冨澤



(文責：電気通信大学 山村 光卓)

研究発表会グループ

活動概要

本グループは、毎年 2 月末～3 月上旬頃に、電子情報通信分野を専攻している学生を中心に集めた研究発表会を企画・実行しています。

我々は、この研究発表会にご参加頂いた学生の皆様が、他校の学生や教授および企業でご活躍されている方々との交流を通して、学術的な見識を深める場を設けることを目的として活動しています。

今年度の実施予定

「電子情報通信学会東京支部
学生会第 21 回研究発表会」

開催日：平成 28 年 3 月 5 日（土）

会場：東海大学 高輪キャンパス

メンバー

幹事校：東京都市大学

下総、関口、間山、小田中、永野、
中村啓太、中村哲也

副幹事校：日本女子大学・千葉工業大学

樋口、齋藤・香西、谷本

会員校：上智大学

朝倉、西山

サポート校：明治大学

島田、津村、百瀬、嶋村、安良岡



特集②

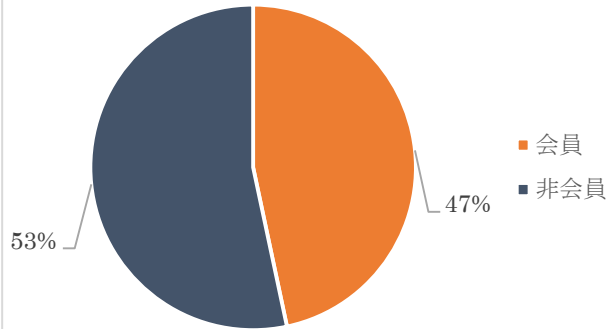
東京支部

学生就職活動記

今年度は就職活動の時期が変更され、今までとは違った就職活動になりました。
就職活動を体験した学生のアンケート結果を記載しております。
来年度の就職活動を迎える方の参考になれば幸いです。

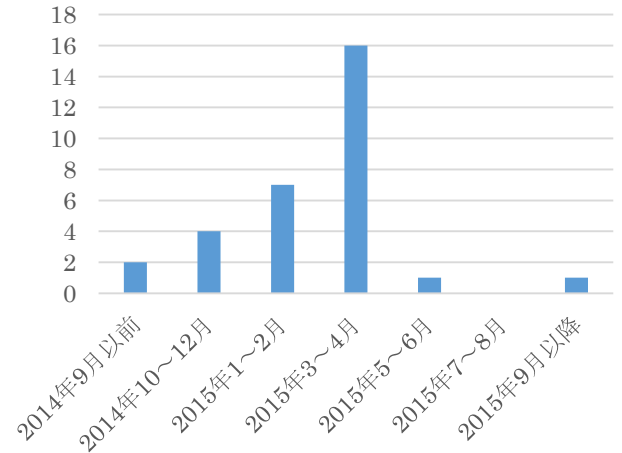
就職アンケート結果

電子情報通信学会学生会員の割合



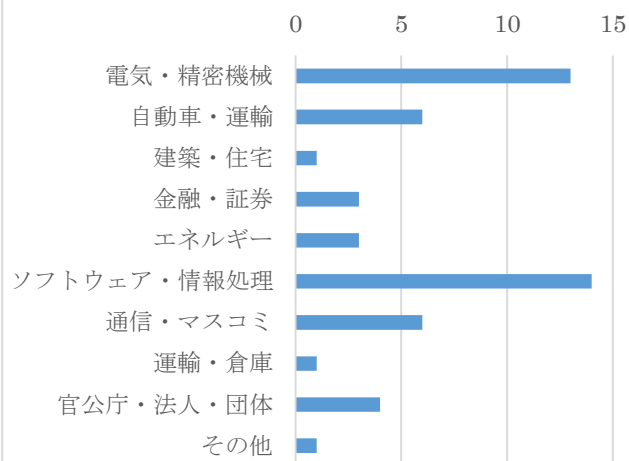
アンケートに答えてくださった方は 32 名でした。そのうち電子情報通信学会学生会員の割合は会員が 47%で、非会員が 53%でした。男女比は男性が 81%、女性が 19%で、大学生が 37%、院生が 63%でした。

就職開始時期



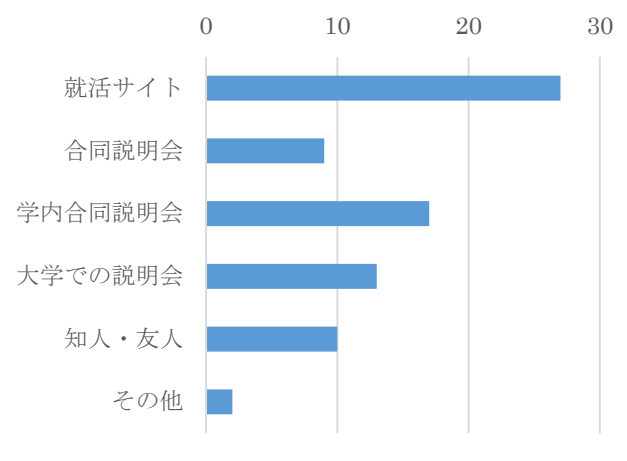
2016年卒は前年度と違い就活開始時期が3ヵ月遅れたこともあり、2015年3月に始める方が多かったです。3月以前に就活を開始している方も多く、早めの準備が功を奏したという話もよく聞くので、できるだけ早く準備をするのもよいと思います。

応募業種

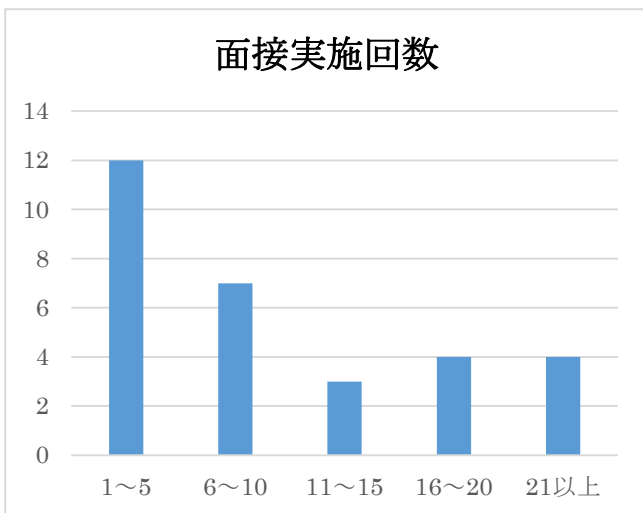
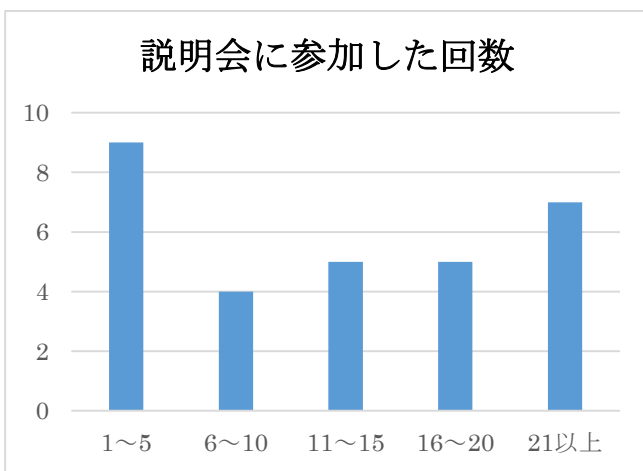
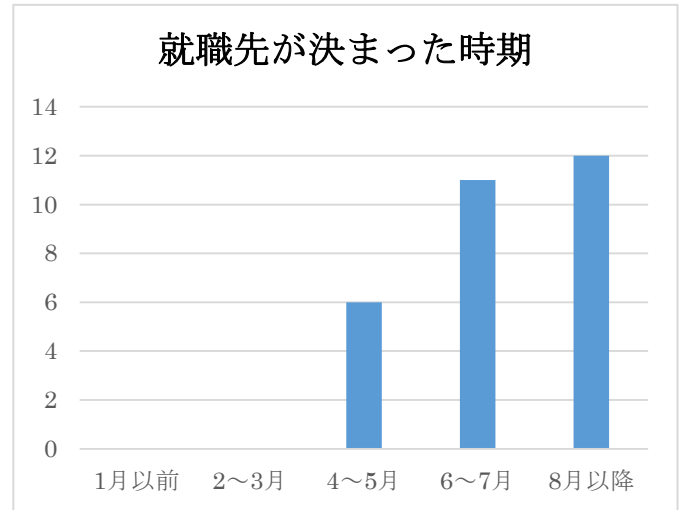
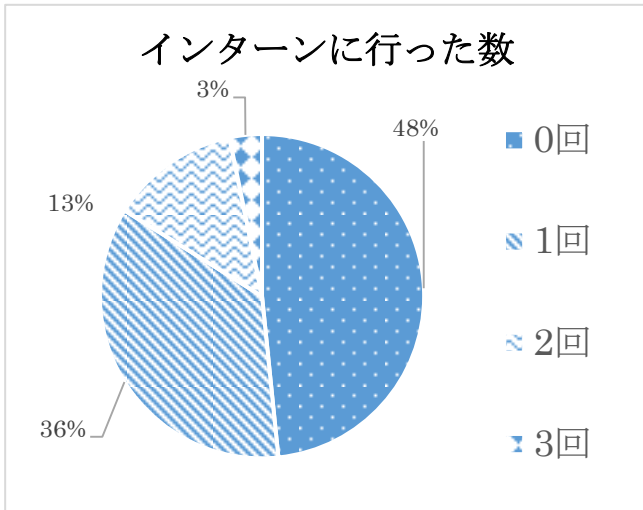


応募業種は電気・精密機械、ソフトウェア・情報処理が多いのがわかります。職種としては SE 系、研究開発、設計が多かったです。アンケートに答えてくれた方は電気電子学科か情報学科が多く以上のような結果になったのだと思います。

企業情報の入手元



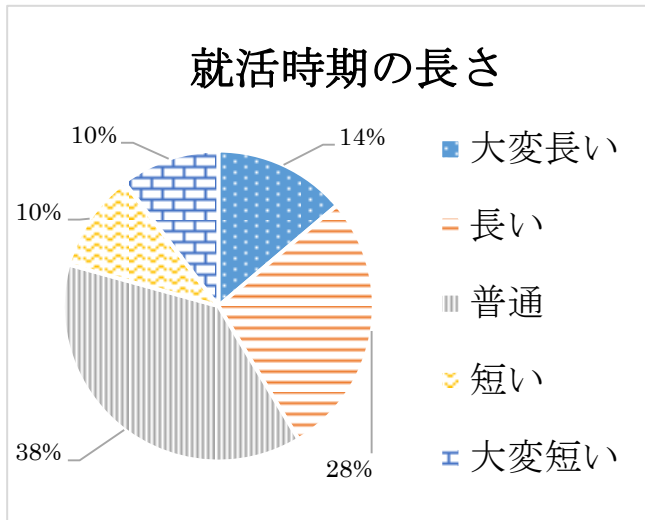
企業情報の入手元として一番多いのは就活サイトでした。就活サイトを経由してエントリーする企業もあるため、現在の就活において、就活サイトの利用は必須のようです。また、学校内の説明会も合同説明会よりも効率的等の理由で、参加した方が多いようです。



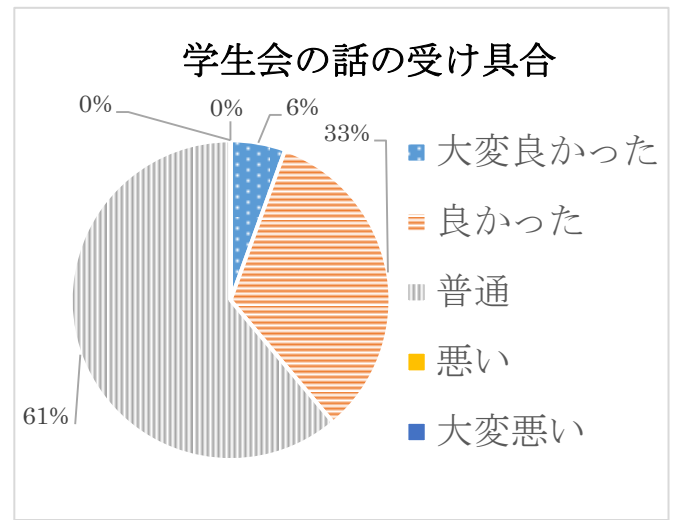
インターンに行った回数，説明会参加回数，面接実施回数は上の図のようになりました。インターンに行ったことがある方は約 50%でした。説明会に参加した回数が 1~5 回の割合が多いですが，いろいろな会社を見て，視野を広げていくことで，新たな出会いがあると思います。

就職先が決まった時期は以上のようになりました。面接解禁が 8 月以降とされた中，4 ~5 月や 6 ~7 月内に進路が決まっている方が多く，早めに就職先を決めた方が多いことがわかりました。しかし，4 月前に決まっている方はいませんでした。

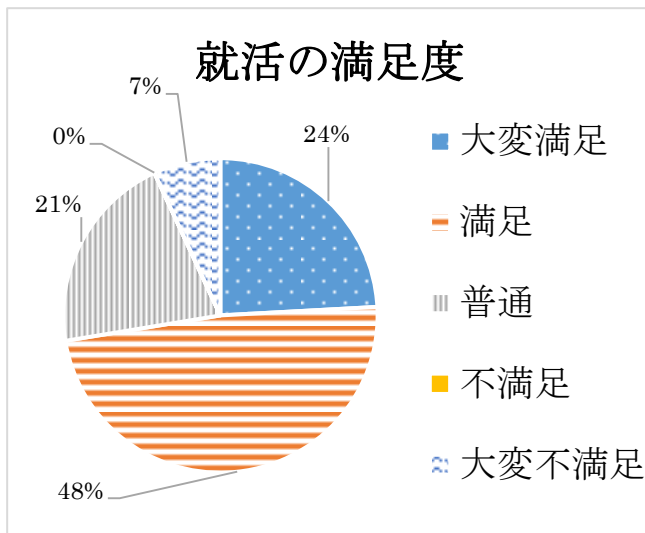
- ・就職活動に入る前に何か特別な取り組みありましたか？
- ・大学の就職課の面接対策講座，グループディスカッション講座などに積極的に参加
- ・就職活動中の軸を教えてください
 - ・結婚しても続けられる，やりがいがある，公共性が高いことを主に軸に考え取り組みました。
 - ・研究内容に関係した分野に携われるか
 - ・前向きな姿勢を見せることを大切にしました。
 - ・自分の夢や目標を実現できるということを軸に取り組みました。
- ・就職活動を終えて，大切だと感じたことは何ですか？
 - ・将来何がしたいのかという自覚
 - ・周到な準備をし，緊張なく自信を持って臨むことが大切だと感じました。
 - ・自分と向き合うこと。
 - ・面接では雑談も多かった所以对して上手く言葉を返すことの出来るコミュニケーション力が大切だと感じました。



どちらかという、長いと感じる方が多いようです。すぐに希望の内定を頂けた方や、苦勞した方など、具体的な活動期間は個人で異なりますが、研究との両立という点で、就職活動が負担であると感じた方は多かったのではないのでしょうか。



話をした方はおおむね良い印象を受けたようです。就活では精力的に取り組んだエピソードを話す機会が多いですが、学生会での経験を話すことは、意欲的な姿勢や他の就活性との差別化など、多くのアピールのきっかけになるのではないのでしょうか。



7 割の方が、就活に満足しており、不満足と感じている方はわずかでした。求人倍率の向上や、多くの会社が採用人数を増やしたこともあり、今年度の就活では多くの方が納得のいく結果を得ることができたのではないかと思います。

・特に印象に残っている ES の内容は？

- ・「中学校から大学までの自分史を教えてください」という質問が珍しくて印象に残っています。
- ・「あなたが興味や関心がある技術やテクノロジーについて自由にお書きください。」といった自己 PR よりも技術者適性を問われる質問がありました。
- ・将来の業界の様子と自分の立ち位置はどうなっているか
- ・大学生活で取り組んできたことを円グラフで表す ES

・特に印象に残っている面接の内容は？

- ・朝 8:30 面接開始で、10 分で自己 PR と質問をする面接がありました。
- ・女性なのになぜこの職種を選んだのかと聞かれたこと。
- ・今まで生きてきた際にいろんな選択肢に出会ったと思いますが、どう選択して今にいたりますか。

- ・「苦手な科目は何か」と聞かれ、正直に「数学です」と答えたら、かなりいい線っていた面接でも落とされたこと

・後輩へのアドバイス

- ・就職開始前に自分のやりたいことはっきり決めることが大事だと思います。どのような企業を受けるのか、自分の志望する企業はどんな人材・スキルが求められるのかなどを早期に把握することにより、就職活動を有利に進められると思います。
- ・焦りすぎずマイペースに就職活動することが大切だと思います。
- ・就職活動は将来を決める重要なイベントなので、後悔のないよう真剣に全力で取り組んでください。
- ・自分が何をなぜやりたいのか、具体的なエピソードを交えて話せるようにしよう。それでやると、就活のスタート地点に立ってます。
- ・自分のキャラクターを企業の方々にアピールするためには、まず今までの学生時代を振り返って自分とはどのような人物なのか、どのようなことが出来るのかを理解することが大切だと思います。
- ・時期がまた変更され、不安でいっぱいだと思います。そして今自分が何をしたいのかわからなくて焦っている方がほとんどだと思います。ですが、周りを気にせず、順番にこなしていけば大丈夫です。友達とも色々あると思いますが、人それぞれです。なので、いろんな考えや面接の練習を友達たちと集まり、共有してストレスも発散して、前向きに進んでいってください。こんな私が言えることではありませんが、応援しています。頑張ってください。
- ・打ち込めることにはしっかり打ち込む 学生会の活動でも同じことですが、協力して何かを成し遂げてほしいと思います。
- ・気分が落ち込むこともあるでしょうが、あきら

めずに進んでいけばいいこともあると思います。頑張ってください。

- ・さまざまな会社の話を受けていると、提出の締め切りも多くなるため、期限には気をつけてください。
- ・インターンシップには必ず行った方がいい。できれば長期の。あとは面接練習をどこまで本気でやれるかではないでしょうか。採用する側としても短時間ではコミユカのあるなしでしか判断できないので、普段しゃべり慣れてる人はやっぱり有利だった。

総評

特集記事「学生員の就職活動」はいかがでしたでしょうか。みなさんが気になる情報、興味深い情報は得られたでしょうか。

就職活動は多くの学生にとって気になるイベントであると思います。また、今年度は就職活動の時期が大幅に変更になったこともあり、このようなテーマを取り扱うことにしました。私が今回のアンケート結果を受けて一番印象的だったことは、多くの方が就職活動を振り返って満足をしているということです。就職活動の結果は今後の人生に関わる非常に重要なことであり、その結果に満足している人が多いというのはとても喜ばしいことであると感じました。

また、今回のアンケートの回答者には電子情報通信学会学生会員が多数おり、学生会での活動を就活でアピールした方が多くいました。学生会での経験は他ではなかなか体験のできないものが多く、責任も伴うものです。このような活動を学生の間で経験できることは非常に貴重であり、採用をする企業にとっても魅力的な人材に見えるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、特集記事を読んでいただきありがとうございます。みなさんにとって有意義な情報になれば幸いです。

(文責：村上 大樹 ，熊田 春人)

学 会 紹 介

当学会は大正6年(1917年)5月に「電信電話学会」として発足した時に始まりました。学問・技術・産業の進歩は著しく、その間に於ける当学会の果たしてきた先導的役割は真に大きなものがあつたと言えます。相続く技術革新の中で、当学会も時代を先取りした進化を着実に遂げて参りました。昭和12年(1937年)には「電気通信学会」と改名し、戦後の半導体エレクトロニクスの登場を迎え、昭和42年(1967年)には「電子通信学会」と改称し、昭和62年(1987年)には既に学会活動の重要分野を占めていた「情報」を名称に組み入れ「電子情報通信学会」と改称しました。また、研究専門分野ごとにそれぞれ特徴ある独自の企画等で活発な学会活動をしたいという気運が高まり、平成7年4月からソサイエティ制を導入し、現在、四つのソサイエティ(基礎・境界／通信／エレクトロニクス／情報・システム)と一つのグループ(ヒューマンコミュニケーション)を発足させております。

当学会の会員は電子・情報・通信の研究技術者達によって構成されており、昭和40年代に急速に発展したエレクトロニクス、さらには近年のコンピュータと電気通信の融合を目指した情報通信に関する研究活動の活発化を反映して、会員数も約3.5万人を擁し、工学関係の学会としては、我が国有数の大規模学会となっております。

学会の会員になりますと、次のような特典が与えられます。

(1) 毎月学会誌が配布され、論文誌(和文・英文)オンライン版が閲覧できます。

学会誌は、各分野から選出の委員約50名で構成された会誌編集委員会において編集され、第一線で活躍されている研究者・技術者らによって平易な記述で執筆されています。また、論文誌は会員から投稿された論文を、各専門分野のエキスパート約1,100名の査読委員が査読し、この結果に基づき論文誌編集委員会が審議し、採録として決定された論文が掲載されています。この論文誌は、諸外国の研究者の論文にも数多く引用されている権威あるものです。

(1)-1 学会誌

学会誌には、新しい技術情報、最近のトピックス、将来動向、総合的プロジェクト、注目すべき話題の特集など多岐にわたり種々の記事が掲載されています。

* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

特に学生員に対して、『学生/教養のページ』欄を設け、新技術の紹介や学生員への有益な記事を最も平易に原理的に記述したもの、及び技術史、技術論、用語、規格等を平易に解説しており、知識の向上を図れるよう編集されています。

(1) - 2 和文論文誌, 英文論文誌

和文論文誌・英文論文誌には、会員からの投稿による『論文』、『レター』と、論文誌編集委員会から執筆を依頼する『招待論文』、『解説論文』が掲載され、また特集号の企画も編集されています。

論文は投稿者自身の研究・開発・検討等をまとめた報告であり、新規性、有効性、信頼性に優れているものです。また、レターは“研究速報”、“紙上討論”、“問題提起”に分類され掲載されています。

和文論文誌・英文論文誌に学生員として研究成果を投稿することをお勧め致します。

なお、英文論文誌については、従来の IEICE Transactions のほか、ペーパーレス速報誌の IEICE Electronics Express (略称 ELEX) が月 2 回発行、Nonlinear Theory and Its Application (略称 NOLTA) が季刊発行、IEICE Communications Express (略称 ComEX) が随時発行されています。

(2) 研究会, 大会などにおいて論文の発表および聴講ができます。

当学会には、学問分野別の活動組織として、基礎・境界／通信／エレクトロニクス／情報・システムの四つのソサイエティとヒューマンコミュニケーショングループがあり、活発な活動を行っています。活動の一つに研究会があり、それぞれ毎月研究会、ワークショップ、勉強会、フレッシュマンセッション等を開催し、熱心な質疑応答を行い会員の研究活動の推進に役立っております。

これらの研究会は、本会の会員であれば自由に発表・聴講・討論に参加することができます。

また、春と秋に大会を開催しており、会員が日頃の研究活動成果を大会の会場で発表し、質疑応答など直接意見の交換ができます。

(3) 各支部が主催するシンポジウム, 講習会, 講演会, 見学会などに無料または低料金で参加できます。

現在、全国に10支部が有り、それぞれの地域の実情に応じた活動(シンポジウム, 講習会, 講演会, 見学会等)を行っております。これらの会は学生相互の交流や、就職・卒業研究・レポート等に役に立ちます。

(4) 各種割引が受けられます。

(4) - 1 単行本, ハンドブックなどの本会発行図書を会員特価で購入できます。

当学会では、最新の技術を解説した単行本、専門分野別に編集した大学シリーズおよび各種ハンドブックを発行しております。会員になりますと単行本を 2 割引で購入できます。特に、単行本の「学术论文の書き方・発表の仕方」は有用です。出版物を紹介した図書目録も発行(無料)しておりますのでご必要の方はお申し出下さい。

単行本の御注文 (<http://www.ieice.org/jpn/books/bookorder.html>)

* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

(4) - 2 ホテル, レンタカー, 旅行等の優待割引制度があります.

当学会では, 毎年発行している会員証を利用してホテル, レンタカー, 旅行等の優待割引も受けられます. 詳細は下記 URL をご参照下さい.

(<http://www.ieice.org/jpn/service/advantages.html>)

(5) 学生会活動に参加できます.

『学生会』は, 本学会の支部(10支部)ごとに学生員の内から委員長・副委員長・委員が任命されている組織で, 自主企画による各種の“学生会活動”(研究発表, 学術講習会, 講演会, 見学会, 親睦会等の開催)を行っています(詳細は各支部学生会の活動をご覧下さい).

(<http://www.ieice.org/jpn/gakuseikai.html>)

『学生会』活動に必要な経費は, 学会から支出されます. なお, 各支部に『学生会顧問』の先生がいて, 『学生会』の活動を指導・支援しております.

また, 各支部の『学生会』活動については, 支部所在地にお問合せ下さい.

(<http://www.ieice.org/jpn/about/syozai.html>)

学会の活動は学問・技術の同好の人達が相集い, それぞれ所属組織の束縛を離れて個人個人が機会均等に参画し, 何物にも束縛されない自由闊達な討議と研究活動を展開し, 学問・技術の進歩と産業の発展に寄与することを目的としております. 当学会の活動を中心として我が国の電子情報通信技術は大きく発展と飛躍をしてきており, 若い学生諸君の入会で更なる発展が起こることを期待する次第です.

下記一覧は, 平成 27 年 3 月末現在の大学別学生員数です.

順位	大学名	学生員数	順位	大学名	学生員数
1	大阪大学	99	11	東京大学	64
2	早稲田大学	93	12	岡山大学	63
3	電気通信大学	91	13	立命館大学	61
4	東京工業大学	88	14	名古屋大学	60
5	法政大学	78	15	慶応義塾大学	59
6	名古屋工業大学	74	16	東京理科大学	57
7	横浜国立大学	73	17	東京電機大学	55
7	北海道大学	73	18	東北大学	54
9	京都大学	70	19	千葉大学	51
10	芝浦工業大学	66	20	九州工業大学	49

学生員総数 4,255 名

*『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

学 生 員 の 特 典

特典多し、君もすぐに学生員になろう！！

(1) 学生員から正員に昇格時の会費を全員 2 年間半額

学生員の方が卒業等で学生員から正員に移行される場合、学部卒業、修士課程修了、博士課程前期修了の方を対象に、基本会費を 2 年間に限り、正員会費 (13,000 円) の半額の 6,500 円と致します。(事務局で対応)

(2) IEEE 会員の場合、入会時 2 年間会費半額 (IEEE 会員証コピー提出)

(3) 本会発行図書を会員特価で購入

本会発行の書籍を、原則定価の 2 割引で購入できます。また、各種ハンドブックは会員特価があります。

(4) 大会講演論文集の DVD が学生員特別割引価格

学生員は、聴講参加費が無料となります。別途、大会論文集 (DVD 版) が学生員特別割引価格で購入できます。

(5) 友人を入会に誘うには、大会時が有利

非会員の学生は、大会会場で学生員入会手続きをすれば (3) の学生員割引が適用できます。

(6) 会員メール転送サービス

本会ドメイン名のメールアドレス (@m.ieice.org) を取得されますとメール転送サービスが利用できます。詳細は、<http://www.ieice.org/jpn/service/mailad-j.html> をご参照下さい。

(7) 会費のお支払い方法

銀行/郵便局の口座からの会費の自動引落しを選ばれますと、基本会費から、5%割引になる特典がございます。手続きの詳細は、<http://www.ieice.org/jpn/service/kaihishiharai/koza.html> をご参照下さい。(毎年 10 月 1 日締切)

(8) ホテル、レンタカー、旅行などの割引

詳細は <http://www.ieice.org/jpn/service/advantages.html> をご参照下さい。

~~~~~

問合先 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内  
一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail : [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) Tel (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659  
月～金 (土日祝日は除く) 9:00～17:30



## 学生員の入会方法

\* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

入会申込は、Web上からのお手続きとなります。下記のURLからお手続きください。

<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

(「Webからの入会方法(正員・学生員)」をクリックしてください。)

受付締切日までに、Webでのご登録と会費のご入金が事務局で確認できたものについて、手続きさせていただきます。入会時の会費は下記をご参照の上、希望入会月の料金をお支払いください。

### 【入会時の会費について】

(単位 : 円)

| 入会月 | 受付締切り | 会 費          | 入会月 | 受付締切り  | 会 費                                       |
|-----|-------|--------------|-----|--------|-------------------------------------------|
| 4月  | ～3月1日 | <b>4,500</b> | 10月 | ～9月1日  | <b>2,250</b>                              |
| 5月  | ～4月1日 | <b>4,500</b> | 11月 | ～10月1日 | <b>2,250</b>                              |
| 6月  | ～5月1日 | <b>4,500</b> | 12月 | ～11月1日 | <b>2,250</b>                              |
| 7月  | ～6月1日 | <b>3,375</b> | 1月  | ～12月1日 | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |
| 8月  | ～7月1日 | <b>3,375</b> | 2月  | ～1月1日  | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |
| 9月  | ～8月1日 | <b>3,375</b> | 3月  | ～2月1日  | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |

### 【参考】学生員の年会費について

| 会員種別 | 資 格                     | 入会金 | 年会費    |
|------|-------------------------|-----|--------|
| 学生員  | 大学院，大学学部，短大，高専，工業高校の在学生 | 不要  | 4,500円 |

### 【ご注意】

入金の確認に4～5日を要しますので、受付締切りの前月25日までにお支払いください。  
(例) 入会月が7月(受付締切り6月1日)の場合、5月25日までに3,375円を振り込むこと)

### 【連絡先】

何かございましたら、下記までご連絡ください。

**一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課** (月～金(土日祝日は除く))

9:00～17:30 TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659 E-mail:kaiin@ieice.org

## 興味分野(研究会名)一覧 (興味分野欄用) 平成 26 年 4 月～

|          |                       |          |                            |
|----------|-----------------------|----------|----------------------------|
| <b>A</b> | <b>基礎・境界</b>          | <b>C</b> | <b>エレクトロニクス</b>            |
| CAS      | (回路とシステム)             | EMD      | (機構デバイス)                   |
| IT       | (情報理論)                | MR       | (磁気記録・情報ストレージ)             |
| R        | (信頼性)                 | SCE      | (超伝導エレクトロニクス)              |
| US       | (超音波)                 | EID      | (電子ディスプレイ)                 |
| EA       | (応用音響)                | ED       | (電子デバイス)                   |
| NLP      | (非線形問題)               | CPM      | (電子部品・材料)                  |
| VLD      | (VLSI 設計技術)           | EMT      | (電磁界理論)                    |
| ISEC     | (情報セキュリティ)            | SDM      | (シリコン材料・デバイス)              |
| SIP      | (信号処理)                | MW       | (マイクロ波)                    |
| WBS      | (ワイドバンドシステム)          | ICD      | (集積回路)                     |
| MSS      | (システム数理と応用)           | OME      | (有機エレクトロニクス)               |
| TL       | (思考と言語)               | OPE      | (光エレクトロニクス)                |
| SITE     | (技術と社会・倫理)            | LQE      | (レーザ・量子エレクトロニクス)           |
| SSS      | (安全性)                 | EST      | (エレクトロニクスシミュレーション)         |
| ITS      | (ITS)                 | MWP      | (マイクロ波・ミリ波フォトニクス)          |
| SIS      | (スマートインフォメディアシステム)    |          |                            |
| IMQ      | (イメージ・メディア・クオリティ)     | <b>D</b> | <b>情報・システム</b>             |
| RCC      | (高信頼制御通信)             | MBE      | (ME とバイオサイバネティクス)          |
| BioX     | (バイオメトリクス)            | LOIS     | (ライフインテリジェンスとオフィス情報システム)   |
|          |                       | IE       | (画像工学)                     |
| <b>B</b> | <b>通信</b>             | NLC      | (言語理解とコミュニケーション)           |
| A・P      | (アンテナ・伝播)             | GPSY     | (コンピュータシステム)               |
| SANE     | (宇宙・航行エレクトロニクス)       | COMP     | (コンピューテーション)               |
| SAT      | (衛星通信)                | AI       | (人工知能と知識処理)                |
| EMCJ     | (環境電磁工学)              | SS       | (ソフトウェアサイエンス)              |
| NS       | (ネットワークシステム)          | DE       | (データ工学)                    |
| IN       | (情報ネットワーク)            | PRMU     | (パターン認識・メディア理解)            |
| CS       | (通信方式)                | DC       | (ディペンダブルコンピューティング)         |
| EE       | (電子通信エネルギー技術)         | NC       | (ニューロコンピューティング)            |
| OCS      | (光通信システム)             | KBSE     | (知能ソフトウェア工学)               |
| RCS      | (無線通信システム)            | SP       | (音声)                       |
| CQ       | (コミュニケーションクオリティ)      | ET       | (教育工学)                     |
| PN       | (フォトニックネットワーク)        | MI       | (医用画像)                     |
| OFT      | (光ファイバ応用技術)           | SWIM     | (ソフトウェアインタプライズモデリング)       |
| ICM      | (情報通信マネジメント)          | RECONF   | (リコンフィギャラブルシステム)           |
| MoNA     | (モバイルネットワークとアプリケーション) | ICSS     | (情報通信システムセキュリティ)           |
| IA       | (インターネットアーキテクチャ)      | IBISML   | (情報論的学習理論と機械学習)            |
| SR       | (ソフトウェア無線)            | EMM      | (マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント) |
| ANS      | (知的環境とセンサネットワーク)      | CNR      | (クラウドネットワークロボット)           |
| SRW      | (短距離無線通信)             | SC       | (サービスコンピューティング)            |
| MICT     | (ヘルスケア・医療情報通信技術)      |          |                            |
| WPT      | (無線電力伝送)              | <b>H</b> | <b>ヒューマンコミュニケーショングループ</b>  |
|          |                       | HCS      | (ヒューマンコミュニケーション基礎)         |
|          |                       | HIP      | (ヒューマン情報処理)                |
|          |                       | MVE      | (マルチメディア・仮想環境基礎)           |
|          |                       | WIT      | (福祉情報工学)                   |

## 論文誌専門分野分類表 (平成 22 年 10 月～)

| ソサイエティ     | 種 類 | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 基礎・境界    | A   | 電気音響 音響一般 騒音 振動 音声 聴覚 超音波 デジタル信号処理 アナログ信号処理 システムと制御 非線形問題 回路理論 回路解析 VLSI設計技術とCAD 数値計算 数値計画法 アルゴリズムとデータ構造・計算複雑度 グラフとネットワーク 信頼性 保全性 安全性 情報セキュリティ基礎 情報理論 符号理論 通信理論 信号理論基礎 スペクトル拡散技術 移動情報通信・パーソナル通信 高度交通システム (ITS) 画像 視覚 コンピュータグラフィックス(CG)基礎 人工知能 ヒューマンコミュニケーション ニューラルネットワーク及び生物工学 マルチメディア環境技術 情報倫理・情報通信倫理 コンカレント工学 測定・計測 基礎理論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|            | EA  | Engineering Acoustics, Noise and Vibration, Speech and Hearing, Ultrasonics, Digital Signal Processing, Analog Signal Processing, Systems and Control, Nonlinear Problems, Circuit Theory, VLSI Design Technology and CAD, Numerical Analysis and Optimization, Algorithms and Data Structures, Graphs and Networks, Reliability, Maintainability and Safety Analysis, Cryptography and Information Security, Information Theory, Coding Theory, Communication Theory and Signals, Spread Spectrum Technologies and Applications, Mobile Information Network and Personal Communications, Intelligent Transport System, Image, Vision, Computer Graphics, Language, Thought, Knowledge and Intelligence, Human Communications, Neural Networks and Bioengineering, Multimedia Environment Technology, Communication Environment and Ethics, Concurrent Systems, Measurement Technology, General Fundamentals and Boundaries |
| B 通信       | B   | 基礎理論 電子通信エネルギー 伝送方式・機器 光ファイバ 光ファイバ伝送 ネットワークシステム ネットワーク インターネット ネットワーク管理・オペレーション アンテナ・伝搬 電磁環境・EMC 無線通信技術 地上無線通信, 放送技術 衛星通信 計測, 探査 航行・誘導・制御方式 宇宙利用システム マルチメディアシステム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|            | EB  | Fundamental Theories for Communications, Energy in Electronics Communications, Transmission Systems and Transmission Equipment for Communications, Optical Fiber for Communications, Fiber-Optic Transmission for Communications, Network System, Network, Internet, Network Management/Operation, Antennas and Propagation, Electromagnetic Compatibility (EMC), Wireless Communication Technologies, Terrestrial Wireless Communication/Broadcasting Technologies, Satellite Communications, Sensing, Navigation, Guidance and Control Systems, Space Utilization Systems for Communications, Multimedia Systems for Communications                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| C エレクトロニクス | C   | 電磁界理論 レーザ・量子エレクトロニクス 光エレクトロニクス マイクロ波, ミリ波 超音波エレクトロニクス 電子回路 電子材料 有機エレクトロニクス 電子部品 機構デバイス 半導体材料・デバイス 集積エレクトロニクス 電子管, 真空・ビーム技術 電子ディスプレイ 超伝導エレクトロニクス 記録・記憶技術 電子計測・制御                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|            | EC  | Electromagnetic Theory, Lasers, Quantum Electronics, Optoelectronics, Microwaves, Millimeter-Waves, Ultrasonic Electronics, Electronic Circuits, Electronic Materials, Organic Molecular Electronics, Electronic Components, Electromechanical Devices and Components, Semiconductor Materials and Devices, Integrated Electronics, Electron Tubes, Vacuum and Beam Technology, Electronic Displays, Superconducting Electronics, Storage Technology, Electronic Instrumentation and Control                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| D 情報・システム  | D   | 情報・システム基礎 計算機システム ソフトウェアシステム ソフトウェア工学 データ工学, Web 情報システム 情報ネットワーク ディペンダブルコンピューティング人工知能, データマイニング ヒューマンコンピュータインタラクション オフィスインフォメーションシステム, e-ビジネスモデリング 教育工学 福祉工学 パターン認識 音声, 聴覚 画像・映像処理 画像認識, コンピュータビジョン コンピュータグラフィックス マルチメディア処理 自然言語処理 バイオサイバネティクス, ニューロコンピューティング 生体工学 音楽情報処理 感性情報処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|            | ED  | Fundamentals of Information Systems, Computer System, Software System, Software Engineering, Data Engineering, Web Information Systems, Information Network, Dependable Computing, Artificial Intelligence, Data Mining, Human-computer Interaction, Office Information Systems, e-Business Modeling, Educational Technology, Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, Pattern Recognition, Speech and Hearing, Image Processing and Video Processing, Image Recognition, Computer Vision, Computer Graphics, Multimedia Pattern Processing, Natural Language Processing, Biocybernetics, Neurocomputing, Biological Engineering, Music Information Processing, Kansei Information Processing, Affective Information Processing                                                                                                                                                                                 |

## 【お知らせ】

## ● 「本会ネットワークサービスのシングルサインオン（SSO）！」

いままで別々のIDとパスワードで提供しておりました会員の皆様のマイページ、Transactions Online、メール転送サービスの登録・変更や論文誌への投稿等各種サービスは、H23 年 5 月 24 日からシングルサインオン(SSO)による認証に切り替わりました。

なお、シングルサインオン(SSO)認証になりますと、会員の皆様がマイページでご利用頂いているID、パスワードに統一されております。

**詳細はこちら：** <http://www.ieice.org/jpn/service/member/mypage.html>

（お願い） 各支部からのご案内や、和・英論文誌の目次をメール配信しております（和・英論文誌は毎月配信）ので、メールアドレス等、登録内容にご変更がございましたら、できるだけお早目に、ご変更のお手続きをお願い致します。

## 【各支部に含まれる都道府県名一覧】

| 支部名 | 都道府県名                                   |
|-----|-----------------------------------------|
| 北海道 | 北海道                                     |
| 東北  | 青森県, 秋田県, 岩手県, 福島県, 宮城県, 山形県            |
| 東京  | 茨城県, 神奈川県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 栃木県, 山梨県 |
| 信越  | 長野県, 新潟県                                |
| 東海  | 愛知県, 岐阜県, 静岡県, 三重県                      |
| 北陸  | 石川県, 富山県, 福井県                           |
| 関西  | 大阪府, 京都府, 滋賀県, 奈良県, 兵庫県, 和歌山県           |
| 中国  | 岡山県, 島根県, 鳥取県, 広島県, 山口県                 |
| 四国  | 愛媛県, 香川県, 高知県, 徳島県                      |
| 九州  | 大分県, 沖縄県, 熊本県, 鹿児島県, 佐賀県, 長崎県, 福岡県, 宮崎県 |

## 【問合先】

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) TEL (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659

月～金（土日祝日を除く）9：00～17：30

\* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

## 卒業される学生さんへ

- (1) 上級課程へ進学される場合は、  
引き続き学生員としての継続ができます。(要申請)
- (2) 学生の時に会員になれば、  
卒業しても2年間の会費は正員の半額になります。
- (3) 入会されますと会員の資格は自動継続されます

### (1) 上級課程へ進学される場合は、引き続き学生員としての継続ができます。

上級課程へ進学し在学される場合は、本人のお申し出により正員(13,000 円)でなく、引き続き学生員(4,500 円)で継続することができますので、学生員申請用紙(<http://www.ieice.org/jpn/service/shikakuhenkou.html>)に記入し、2月20日(毎年)までにご連絡下さい。

### (2) 正員入会時の割引 入会后2年間会費半額

本会主催の大会、研究会、支部大会等で発表した学生が卒業等の後2年以内に本会に入会する場合には、会費を入会后2年間に限り、年会費の半額といたします(博士課程修了の者は除く)。

(<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/guideline.html>)

### (3) 学生の時に会員になれば、卒業しても2年間の会費は正員の半額になります。

学生員の方が卒業等で学生員から正員に昇格される場合に、会費を卒業後2年間に限り、正員会費 13,000 円を半額の 6,500 円と致します(博士後期課程修了の方は除く)ので、学生の時に会員になられることを薦めます。

また、今後就職等で住所が変更される場合は会員としての権利継続のためにも、必ずご連絡下さい。  
(<http://www.ieice.org/jpn/service/todokede/main.html>)

(4) 一度入会されますと会員の資格は継続されますので、退会される場合は会費を完納の上、退会届のフォームに記入し、会員課までご連絡下さい。

<http://www.ieice.org/jpn/service/taikaitodoke.html>

### 【登録情報の確認・ご変更はマイページをご利用下さい】

ご自分の登録情報を、マイページで確認することができます。また、送付先住所、学生員申請、オンラインジャーナル登録情報の変更、退会届、等変更可能な項目の内容変更ができます。ぜひご利用下さい。

<http://www.ieice.org/jpn/service/member/mypage.html>

**連絡・問合せ先** 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内

一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail : [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) Tel (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659

月～金(土日祝日は除く) 9:00～17:30

\*『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より



## 編集後記

東京支部学生会 学生会報 第 21 号 いかがでしたでしょうか？

今回の学生会報は、「学生員の就職活動」をテーマに選びました。他の学生が一体どのような就職活動をしているのかをお伝えしたい、また活動をしてきた学生の皆様の記録になるような会報にしたい、と思い作成しました。記事では今年度就職活動をした学生にアンケートを取り、それぞれの活動をまとめました。今後就職活動を迎える学生の方に参考にして頂けたら、幸いです。

末筆ながら、本会報を作成するにあたりご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。特に、急なお願いにも関わらずアンケートにご回答頂いた皆様、本当にありがとうございました。また、学生会運営委員の皆様、学会事務局のご担当者様、そして学生会報担当の皆様の御協力のおかげで本会報を作成することができました。ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

熊田 春人, 村上 大樹



平成 28 年 2 月 26 日 初版発行

編集：熊田 春人 村上 大樹（所属：中央大学）

発行 一般社団法人電子情報通信学会 東京支部学生会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

Tel (03) 3433-6691 Fax (03) 3433-6659

E-mail: shibu@tokyo.ieice.org

<http://www.ieice.org/tokyo/>

